
君と僕からはじまる物語

トミー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と僕からはじまる物語

【Nコード】

N7127B

【作者名】

トミ一

【あらすじ】

初恋の人に想いをよせる少年の成長を描く物語。

サクラ咲く君に。

さよなら…ユメ…僕は君のために死ぬ。

さよなら、ユメ…君のために僕は死んだ。

僕が15になった春。

桜吹雪が舞う校庭の片隅でユメに出会った。

学年でも男子の中で一番身長の高い僕は桜の木に捕まった白いスカ
ーフに手を伸ばしていた。

どんなに爪先を立たせて背筋をあげても指先がかすりさえしない。

僕の身長のは二倍はあろうかと思われる桜の枝に必死に手を仰ぐ。身
長153センチの僕は高く高く額に汗をかきながらジャンプをする。

届け！とどけ！僕は木の枝に足をかけた。 高

い場所は苦手だ。でも登らないととれないぞ…。 その時、後ろか
ら声があった。

「見つけた！」

長い髪を揺らしながら彼女が走ってきた。

「ありがとう。それ、私のなの…。」

息を切らしながら彼女は僕の頭の上を指差した。 「あ、うん…。

「僕は一気に肩の力が抜けて彼女の顔をちらりと見るなり赤面した。

「うふふつ、君じゃ届かないよね？」

そういうなり彼女は僕の肩にそつと触れると僕の目の前に立ち思
いっきりジャンプした。

「えいつ！」

ひらりと宙に浮かんだ彼女の体は軽がると細い指先を伸ばしスカ
ーフを捕まえた。 啞然とする僕を尻目に彼女は制服のスカートを整え
ると真新しいセーラー服にスカートフを結んだ。 「私、愛野

夢。」「僕に手を差し出した彼女の笑顔はとても輝いて見えた。

「あ…おつ、俺…渡 光…。」

名前を言うのが精一杯で僕は手を差し出す事を忘れていた。

「ほらっ！」

彼女は僕の両手を勢い良く掴み取ると両手で強く握った。

「あ、あ…宜しく…。」

僕は赤面した顔を精一杯の笑顔で彼女に見せた。

「うん。こちらこそ。」

その時、僕達の回りに春風が優しく吹き込み僕らをそっと包み込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7127b/>

君と僕からはじまる物語

2011年1月20日05時17分発行